

産学連携懇談会

九経連が地域産業の振興・育成、環境・エネルギー問題への対応、アジアとの交流およびビジネスの拡大、社会基盤の整備、人材の育成・確保等を推進するためには、「知」の拠点である大学・高等専門学校との連携強化は不可欠と判断。2010年に「産学連携懇談会」を設置した。

2009年以降、大学・高専に対し九経連への会員加入を働き掛け、これまでに43大学法人、8高等専門学校が入会している。同懇談会は産学合計約100名のメンバーから構成されている。この他、九経連各種委員会にも、大学・高専会員から約170名の先生方に参加いただいている。（2020年10月末日現在）

産学連携においては、大学の研究成果（シーズ）と企業が求める課題解決方策（ニーズ）をうまく組み合わせることにより、大学と企業相互にWIN-WINの関係を築くことが重要である。早急に事業化を求めるのではなく、まずお互いをよく知りあうことが重要とのことから、産学連携の本来の姿に立ち返って、大学学長および高専校長と九経連役員が参加する第1回産学連携懇談会を2010年5月に開催した。

2010年から2012年にかけては、産学連携に関する課題についての協議、ならびに産学の出会いの場の設定（見学会、プレゼン等）、人材育成（グローバル人材、ICT人材、九州の技術系人材育成等）についての意見交換を行った。2013年から2015年にかけては九州の持続的発展のために重要かつ緊急性の高いテーマである「九州地域の国際競争力強化」について産学官が連携して取り組むべき課題と対応策を意見書として取りまとめて公表した。

2016年に発生した熊本地震対策等のため同懇談会は休止したが、2018年5月に第10回産学連携懇談会を再開し、産業振興・地方創生という観点から、新たに、スタートアップ、大学発ベンチャー支援、ベンチャー・エコシステム構築などについて協議した。

その後、新型コロナ感染拡大などの影響により、同懇談会の開催が延期となり、2021年4月に第11回産学連携懇談会として再開する予定である。

産学官連携による取り組みは広範囲に及び、「道州制の九州モデル」「低炭素社会を目指す九州モデル」「九州成長戦略アクションプラン」「九州次世代自動車産業研究会」「九州林業研究会」「九州の公立大学のあり方を考える研究会」などのアクションプランを策定した。新産業創出と企業活動強化の観点からは、イノベーション創出への取組、知的財産の創造・保護及び活用、航空宇宙等次世代産業の育成、農業の国際競争力強化、医療・介護産業の発展、シーズ・ニーズに関する情報発信およびマッチング機会の創出、大学発ベンチャーの育成、社会課題解決型プロジェクト活動等を推進・支援してきた。人材面では、ICT・デジタル人材の育成、九州ICTオープンスクール、グローバル人材の育成等に取り組んできた。更に、国際交流、各地域の交流・課題解決についても幅広く関与・支援している。

これからの人口減少社会では、オープンイノベーション、新産業・新価値創出、新たな社会基盤の構築に加え、企業・大学ともに優秀な人材の確保が重要となり、大学の勝ち残りという課題にも直面している。こうした課題解決のためには新たな地方創生モデル、魅力ある大学モデルの確立が必要不可欠であり、産学の高度な連携および相乗効果が一層重要となっている。